

## 4 地域リハビリテーションについて

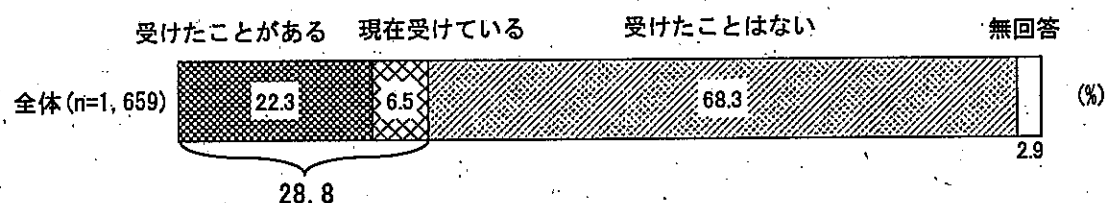
### (1) リハビリテーションを受けた経験

◇『経験がある（計）』が約3割

障害のある子どもや成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合っている活動のすべてを地域リハビリテーションといいます。

問21 あなた又はあなたの家族は、地域や病院、施設などで、理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士などの専門職による、リハビリテーションを受けたことがある、又は現在受けていますか。（○は1つ）

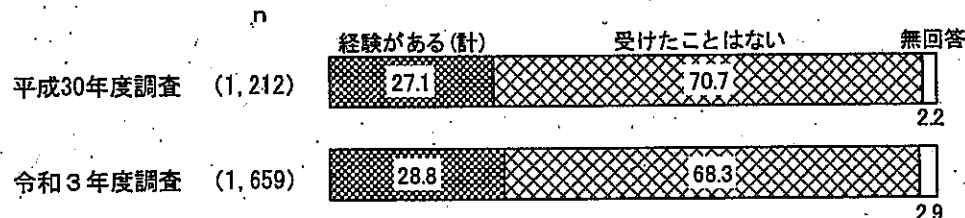
<図表4-1>リハビリテーションを受けた経験



自分又は自分の家族が地域や病院、施設などで、理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士などの専門職による、リハビリテーションの経験を聞いたところ、「受けたことがある」（22.3%）と「現在受けている」（6.5%）を合わせた『経験がある（計）』（28.8%）が約3割となっている。

一方、「受けたことはない」（68.3%）が約7割となっている。（図表4-1）

【参考】平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



#### 【地域別】

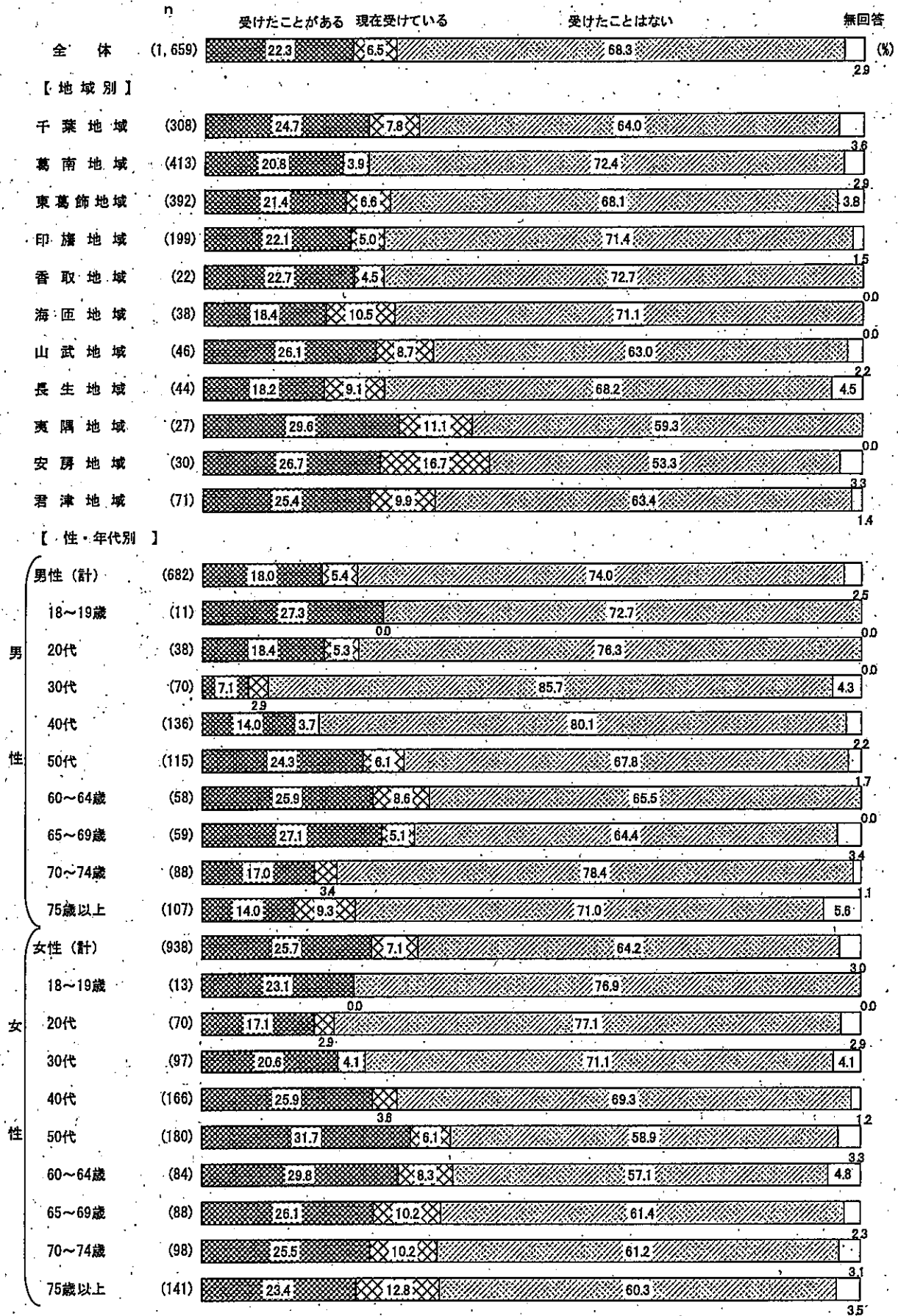
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表4-2）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『経験がある（計）』は女性の60～64歳（38.1%）と50代（37.8%）が約4割で高くなっている。

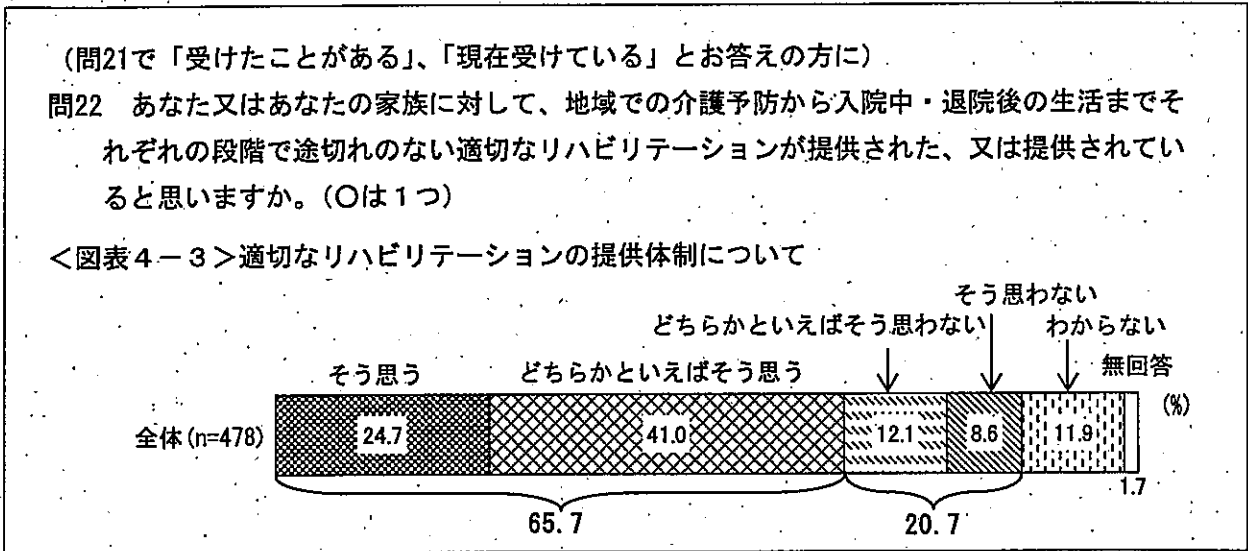
一方、「受けたことはない」は男性の30代（85.7%）が8割台半ば、男性の40代（80.1%）が8割、男性の70～74歳（78.4%）が約8割で高くなっている。（図表4-2）

<図表4-2>リハビリテーションを受けた経験/地域別、性・年代別



(2) 適切なリハビリテーションの提供体制について

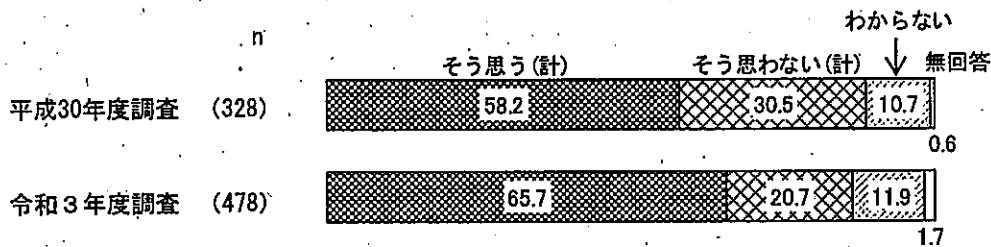
◇『そう思う（計）』が6割台半ば



自分又は自分の家族に対して、地域での介護予防から入院中・退院後の生活までそれぞれの段階で途切れのない適切なリハビリテーションの提供体制を聞いたところ、「そう思う」(24.7%)と「どちらかといえばそう思う」(41.0%)を合わせた『そう思う(計)』(65.7%)が6割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.1%)と「そう思わない」(8.6%)を合わせた『そう思わない(計)』(20.7%)が2割となっている。(図表4-3)

[参考] 平成30年度の同様の項目による調査結果との比較(単位: %)

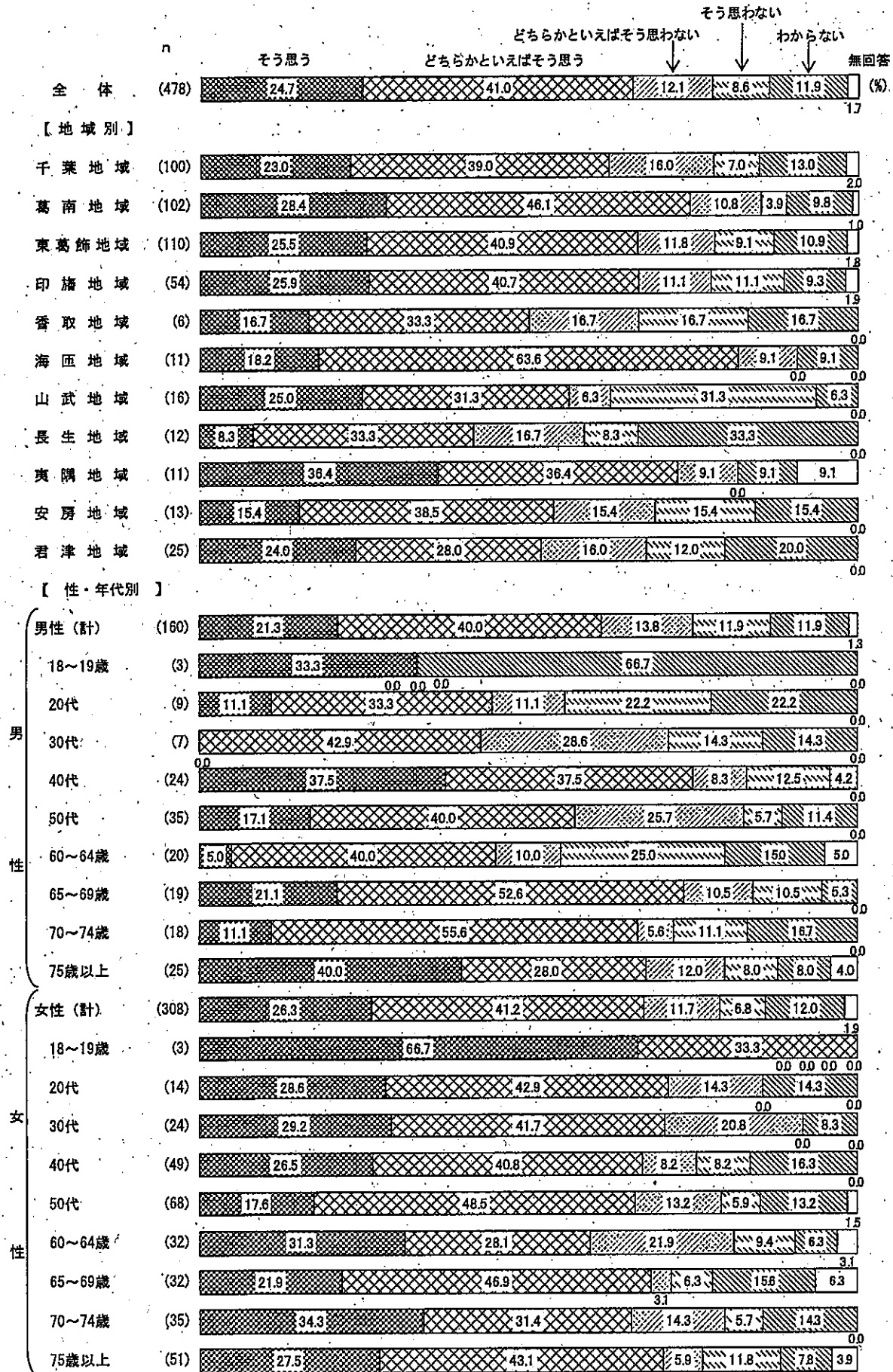


※ サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

(8ページ「報告書の見方(5)」を参照)

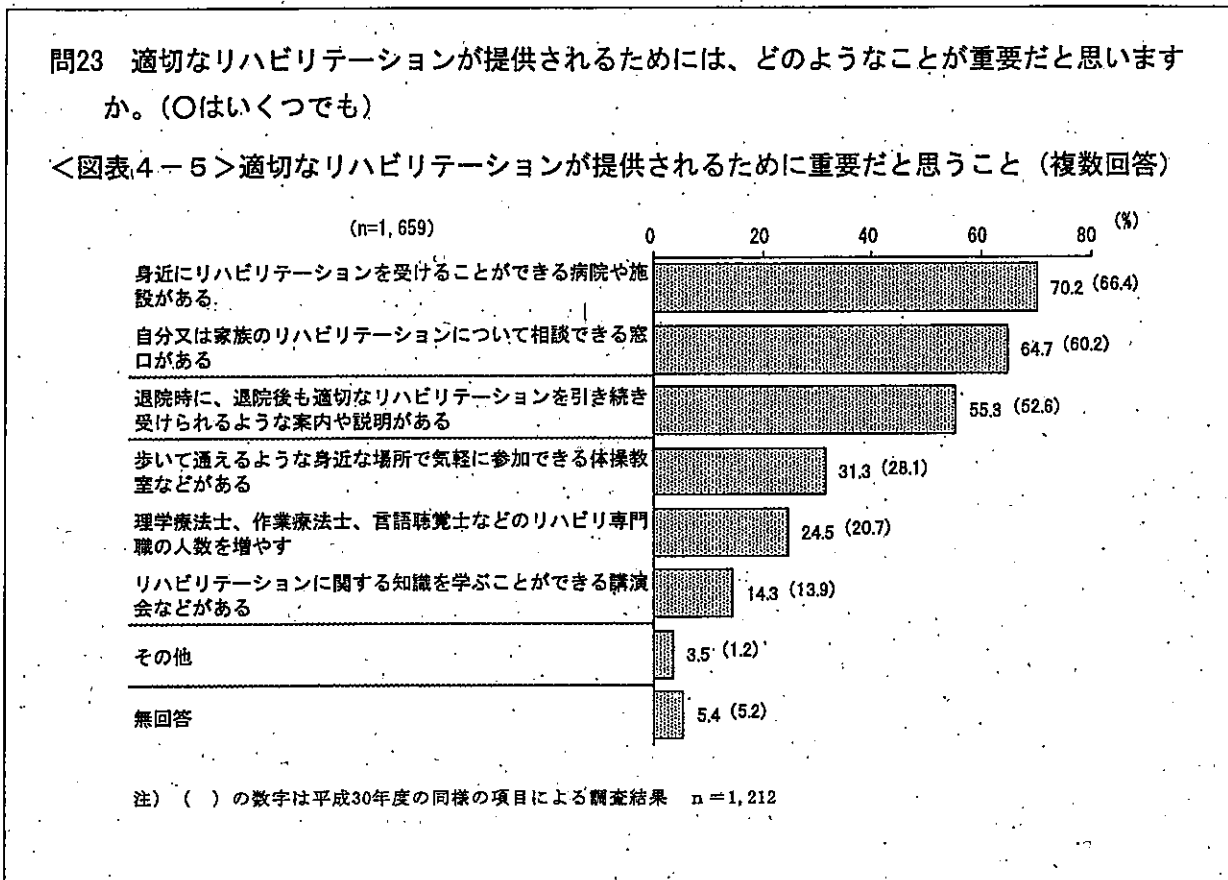
(図表4-4)

[参考] <図表4-4> 適切なりハビリテーションの提供体制について / 地域別、性・年代別



（3）適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うこと

◇「身近にリハビリテーションを受けられることができる病院や施設がある」が7割



適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うことを聞いたところ、「身近にリハビリテーションを受けられることができる病院や施設がある」(70.2%)が7割で最も高く、以下、「自分又は家族のリハビリテーションについて相談できる窓口がある」(64.7%)、「退院時に、退院後も適切なリハビリテーションを引き続き受けられるような案内や説明がある」(55.3%)、「歩いて通えるような身近な場所で気軽に参加できる体操教室などがある」(31.3%)が続く。(図表4-5)

【地域別】

地域別にみると、「身近にリハビリテーションを受けられることができる病院や施設がある」は“香取地域”(77.3%)が約8割で高くなっている。(図表4-6)

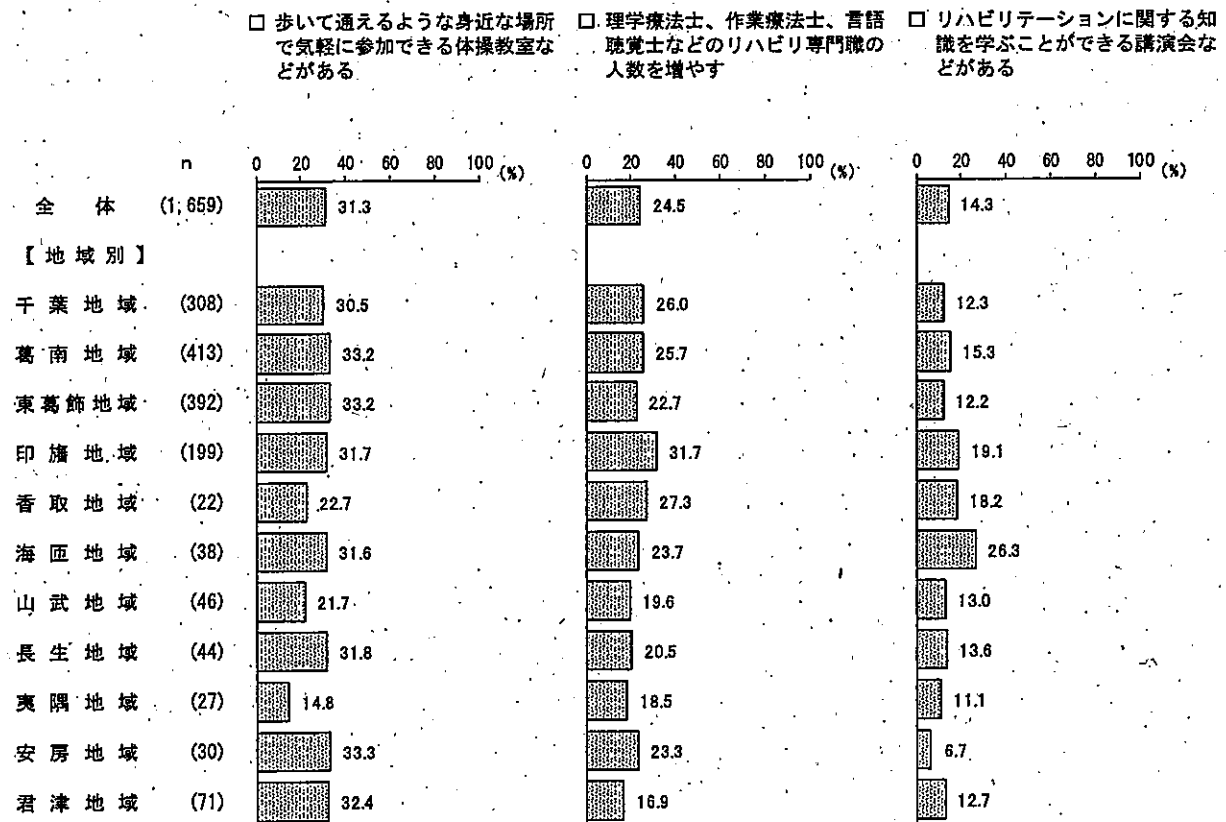
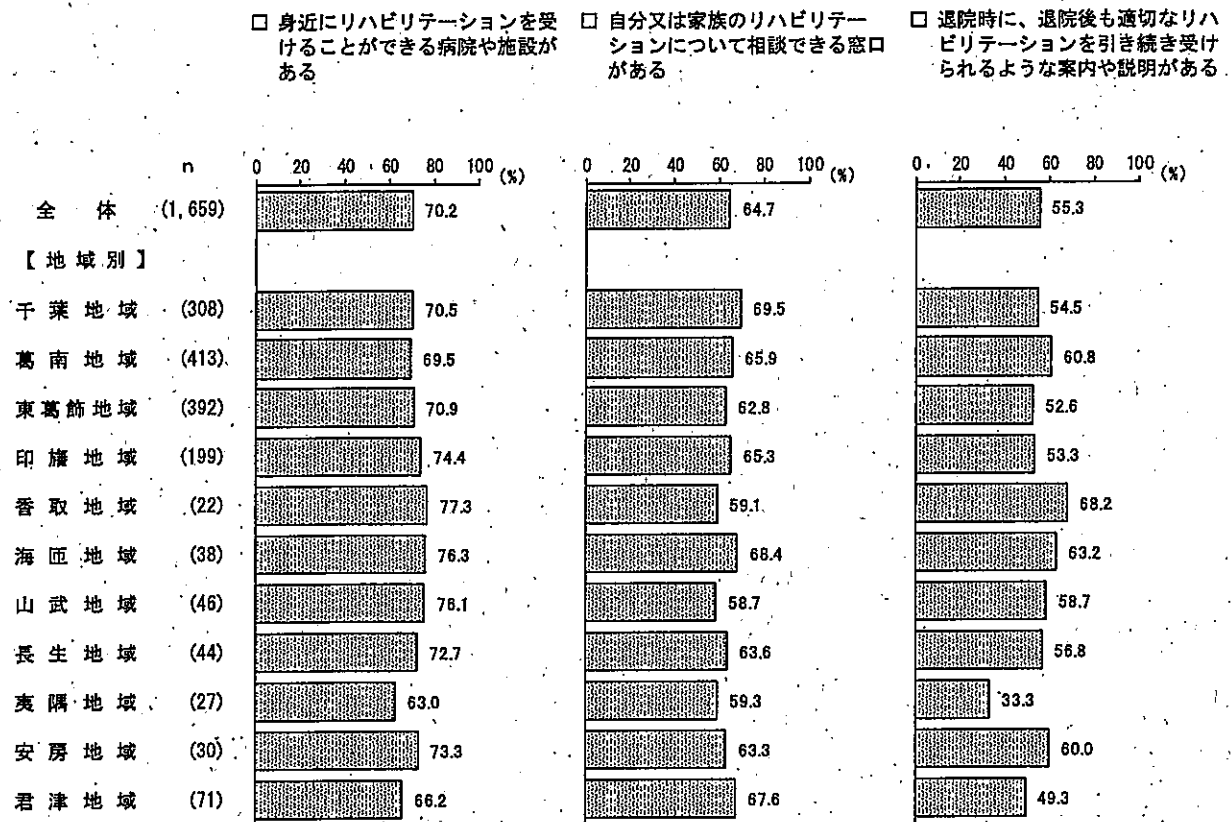
【性・年代別】

性・年代別にみると、「身近にリハビリテーションを受けられることができる病院や施設がある」は女性の20代(84.3%)が8割台半ばで高くなっている。

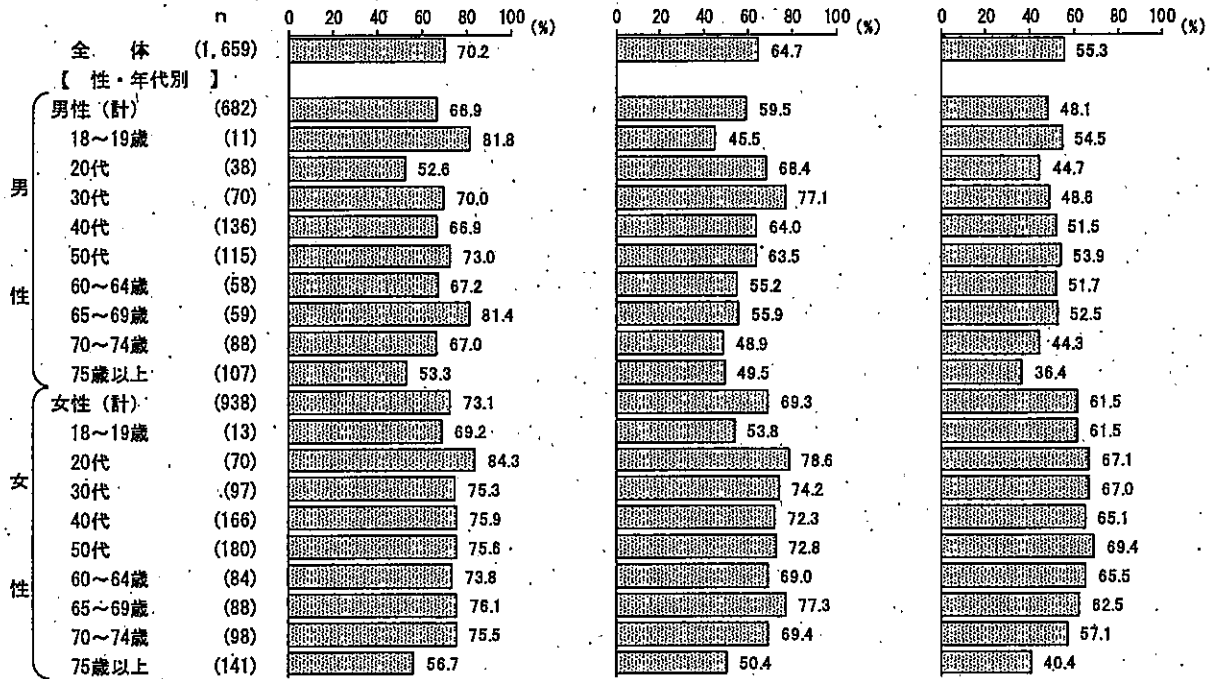
「自分又は家族のリハビリテーションについて相談できる窓口がある」は女性の20代(78.6%)、65～69歳(77.3%)と男性の30代(77.1%)が約8割、女性の50代(72.8%)と40代(72.3%)が7割を超えて高くなっている。(図表4-6)

<図表4-6>適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うこと（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）



- 身近にリハビリテーションを受けられることができる病院や施設がある
- 自分又は家族のリハビリテーションについて相談できる窓口がある
- 退院時に、退院後も適切なリハビリテーションを引き続き受けられるような案内や説明がある



- 歩いて通えるような身近な場所で気軽に参加できる体操教室などがある
- 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハビリ専門職の人数を増やす
- リハビリテーションに関する知識を学ぶことができる講演会などがある

